

沖縄村落守護シーサーの集落毎の設置様態 -シナ海石造獅子・狗犬文化圏の比較研究 (5)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学教養論集刊行会 公開日: 2021-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川野, 明正 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22053

沖縄村落守護シーサーの集落毎の設置様態

ーシナ海石造獅子・狗犬文化圏の比較研究 (5)

川野 明 正

一. はじめに

本論は、沖縄の村落守護シーサーについて、各行政区画ごとに村落守護シーサーがある集落の設置箇所を小字相当の単位でまとめたものである。村落守護シーサーは、沖縄本島と島嶼に分布し、現存 149 体の村落守護シーサーが 84 箇所の集落内に設置される。加えて 4 箇所に獅子像 4 体が保存され、合計 153 体の村落守護シーサーが現存する [川野 2021]。これについては、村落守護シーサーが現存する集落の分布地図と、村落守護シーサー一覧表を作成した (巻末、表・地図参照) (一覧表中のシーサーの呼称については、城間弘史氏の『村獅子大全』を参考とした) [城間 2019]。

集落の守護であるこの種の獅子像の性格を考察するのに、各集落の設置数や設置の様相は、各地域ごとの相違を知る上でも有用である。また、単体で設置する場合と、複数で設置する場合とでは、性格に根本的な相違がある場合もある。たとえば、単体で設置される場合は、「火山」(ヒイザン) と呼ばれる火災の原因となる特定の山峰や岩場に対して、「火返し」(ヒーゲーシ) として設置する目的が多いのに対して、複数で設置する場合は、集落の周囲に設置し、各方向から来る悪いものに対する辟邪として設置されることが多い。辟邪の役割としては、悪霊=マジムン (魔物)・ヤナムン (魔物に相当する) や悪気など、良くないものの侵入からの防護であるといえ、「ヤナ

ムン返し」(ヤナムンゲーシ) などと呼ばれる。

村落守護シーサーの設置数の類型は、以下の分類とした。

- a. 単所型 = 集落に 1 箇所
- b. 双所型 = 集落に 2 箇所
- c. 多所型 = 集落に 3 箇所以上

双所型は、集落の道路両端などに設置する場合もある。すなわち、道路との関係を考慮すると、単所型・多所型のみでの分類では明確にならない辟邪の要素がある場合があり、双所型を設定する必要がある。双所型は、集落内に 2 箇所村落守護シーサーを設置し、2 体のシーサーを単一方向に向け、辟邪の効果を高める場合もある。双所型の分類の設定から明確となる論点がある。

村落守護シーサーの集落内の設置数と様態についての分類研究は、平敷令治氏を嚆矢とする。平敷令治氏は、『那覇市史』「資料編」第 2 巻中の 7「那覇の民俗」で、沖縄の村落守護シーサーを一頭火伏型・一頭駆邪型・多頭駆邪型に分類する。現存最古の村落守護シーサーである八重瀬町富盛の石彫大獅子(1689 年造立)は、火山である八重瀬嶽に対して火災防止で設置するが、このような背景から火伏型を当初の様態とし、駆邪型 2 種を後代の変化型とする [平敷・那覇市企画部市史編纂室 1979:454]。長嶺操氏は『写真集 沖縄の魔除け獅子』で、沖縄の村落守護シーサーについて、一体型・対型・多数型に分類する。多数型は東西南北を守護するため、4 体を設置する集落が最も多いとされる [長嶺 1982:137-138]。知念善栄氏は『東風平村史』で、宜次集落では村落守護シーサーを「四隅番」(クンシバン)と呼んで、東西南北の防御の役割を重視する観念を記す [知念 1976:1026]。

二. 沖縄北部・中部・南部・八重山諸島の村落守護シーサーの設置様態

凡例.

- ・漢数字 = 村落守護シーサーを有する集落の集落番号である（一覧表参照）。沖縄県北部から南部にかけての順に番号を付した。
- ・【遺失+漢数字】 = 過去村落守護シーサーを有した集落の集落番号である（現在も村落守護シーサーを遺す集落は番号を付さない）（一覧表参照）。
- ・単所型・双所型・多所型の分類については、元来の様態を重視し分類した。現在の様態では変化が生じた場合もある。

1) 北部・北部島嶼

1. 伊平屋村 = 1 集落（一. 田名）

多所型 = 1 集落（一. 田名）

【説明】 田名集落は、集落北端・東端・西端の3箇所に設置。北には御嶽があり、集落を見下ろす形で、サホーのシーサーが設置される。

2. 東村 = 1 集落（二. 慶佐志）

双所型 = 1 集落（二. 慶佐志）

【説明】 集落南北の道路端に各個設置。

3. 名護市 = 1 集落（三. 宇茂佐）

双所型 = 1 集落（三. 宇茂佐）

【説明】 道路沿いに東端・西端に設置。西のシーサーは双体型で、黄金森（クガニムイ）のなかに拝所を設け、焼物シーサーが1対で設置される。

4. 宜野座村 = 2 集落 (過去 3 集落) (四. 松田・五. 惣慶・【遺失一】 宜野座)
単所型 = 無 (過去 1 集落) (【遺失一】 宜野座)

【説明】 惣慶集落と松田集落の間にある宜野座集落は過去単体のみ設置した [宜野座村誌編集委員会 1989:532]。

多所型 = 2 集落 (四. 松田・五. 惣慶)

【説明】 松田は、現在東端に 1 体を遺すが、『宜野座村誌』によれば、過去 4 体、東・西・南・北に「石敢當」(イシガントウ) と呼ぶ石獅子を設置した [宜野座村誌編集委員会 1989:520]。

惣慶は、東・西・北端に 3 体の「石敢當」が設置される。『惣慶誌』によれば、惣慶では、「石敢當」の側には「クムイ」(溜池) がある。とりわけ南端のクムイは伊計島への火返しである [宜野座村字惣慶区 1978:259-260]。このため、惣慶は辟邪物の範疇からみると、4 方向型で、集落の 4 隅の守護として辟邪物を置く。これが松田・惣慶に共通する辟邪物設置の特徴である。宜野座村の村落守護シーサーは、火返しの意味もあり、惣慶集落では、3 方向とともに山や岬に向く「山返し」(サンゲーシ) で、火災防止の役割という。各個安部崎・恩納嶽・久志嶽に向き、火山に相当する場所といえる。

2) 中部・中部島嶼

1. うるま市 = 5 集落 (過去 6 集落) (六. 与那城饒辺・七. 与那城伊計・八. 勝連津堅・九. 勝連南風原・一〇. 高江洲・【遺失二】 与那城)

【説明】 遺失した与那城の状況は不明。

単所型 = 2 集落 (六. 与那城饒辺・一〇. 高江洲)

【説明】 与勝半島から沖縄市にかけては単体型が多い。与勝半島では、

与那城繞辺・高江洲(旧具志川市)が単体である。高江洲の石獅子は、喜屋武グシクへののろし台の火返しであった。

多所型 = 3 集落 (七. 与那城伊計・八. 勝連津堅・九. 勝連南風原)

【説明】 島嶼部では、津堅島の津堅集落が、過去西・南・北の3箇所3体あった。西のシーサーが遺失し、現在2体である。伊計島は3体であるが、いずれも沿岸に設置し、南東から南西の海上を向く。自然石シーサーの1体は、南東の宮城島東側の岩礁ヤマダキの返しである。他の2体はいずれも南西を向き、水路を見守る。『勝連南風原字誌』によると、与勝半島の勝連南風原の石獅子は、1726年設置と伝わる。集落の周囲に石獅子を設置し、過去5箇所5体あり、現在は北西と南西の2体が遺る。遺失した東の石獅子は勝連グシクの火返しである [中頭郡勝連町字南風原字誌編纂委員会 2000:283-284]。

2. 沖繩市 = 3 集落 (一一. 胡屋・一二山里・一三. 古謝)

単所型 = 2 集落 (一一. 胡屋・一二山里)

【説明】 山里は近隣の島袋集落が火災が多く、石獅子はその火返しであった。若山大地・若山恵里両氏の「沖繩の石獅子—沖繩本島の村落獅子四十五体の解説」によれば、胡屋集落は大正時代に集落の東西南北にニービと呼ぶ砂層の塊を設置し、村の防御とし、石獅子とは別個の四方の辟邪物がある [若山大地・若山恵里 2019:15]。

多所型 = 1 集落 (一三. 古謝)

【説明】 古謝集落ではかつて東の石獅子と西の石獅子があり、双所型である。北の石獅子は戦後設置され、一時期3体の石獅子があり多所型とした。戦前クミイの返しであった東の獅子は戦後移設さ

れ、今は津堅島と与勝半島との間の海峡の津堅ドーウに向ける。北の獅子も東の獅子も現在は南を向き、今は双所単方向型である。西の獅子は交通事故で近年失われ、人型の辟邪物を代置した〔古謝誌編集委員会 1999:143-144〕。これは南西のシシクエーモー（獅子喰い毛＝野）の森へ向け、火返しである〔沖縄市教育委員会（編）2002〕。

3. 嘉手納町＝無（過去1集落）（【遺失三】野里）

単所型＝無（過去1集落）（【遺失三】野里）

【説明】 野里集落は嘉手納基地内に消えた集落で、現在嘉手納町に行政区画単位は遺るが、集落は現存しない。かつて集落西の馬場に石獅子を設置し、現在は嘉手納中学校裏手の共同墓地中の野里拝所に石獅子を設置する〔字野里誌編集委員会 2004:256-257〕。こちらは拝所の石獅子であるため、村落守護シーサーには分類しない。

4. 北中城村＝1集落（過去2集落）（一四. 喜舎場・【遺失四】熱田）

単所型＝1集落（過去2集落）（一四. 喜舎場・【遺失四】熱田）

【説明】 喜舎場は、集落西側に普天間基地に消えた火山である大岩カニサンの火返しとして設置した。熱田にも近年まで1体の石獅子があったが、現存しない〔呉屋 2019〕。呉屋善昭氏の御教示によれば、龕（喪輿）の側にあり、龕への返しの性格を考慮し、村落守護シーサーとみなした。

5. 中城村＝無（過去1集落）（【遺失五】津覇）

単所型＝無（過去1集落）（【遺失五】津覇）

【説明】 津覇の村落守護シーサーの現状は不詳。

6. 宜野湾市 = 3 集落 (過去 5 集落) (一五. 我如古・一六. 嘉数・一七. 喜友名・【遺失六】 普天間・【遺失七】 伊佐)

【説明】 宜野湾市は、嘉数が単所型で、戦前集落南端に単体で設置した。過去も現在も浦添グシクに向けて設置するという。現在は嘉数高地（沖縄戦激戦地）に破損してセメントで補修したシーサーとともに石獅子が設置され、2 体設置の単所 2 体単方向型である。石獅子は、富盛の石獅子に似た自然石を戦後運び、自然石のままのつもりが、加工されてしまったという。

過去には伊佐にも村落守護シーサーがあった。【伊佐誌】は昭和十五年（1930）頃の集落再現地図を巻頭に掲載し、4 体の村落守護シーサーが集落東北辺に点在する〔伊佐誌編集委員会 2011〕。

喜友名は沖縄県内最多の村落守護シーサーを有する。霊獣像ヒージャーグーフーは石獅子に近く、直立した獅子像の像容で、合計 8 体がある。この他破損して遺失した石獅子が 2 体ある〔長嶺 1982:68-69〕。集落拡張と共にシーサーも前進する。多所多方向型である。若山恵里氏の御教示によれば、我如古集落もかつて 4 体あったという。

宜野湾市は、普天間の村落守護シーサーの状況は不詳。普天間・新城・安仁屋一帯に普天間基地やキャンプ瑞慶覧に基地に消えた村落守護シーサーがあった可能性があり、今後の調査待ちである。一部土地が返還されているので、区画整理での出土の可能性がある（呉屋善昭氏の御教示による）。

単所型 = 1 集落 (一六. 嘉数)

多所型 = 2 集落 (過去 3 集落) (一五. 我如古・一七. 喜友名・【遺失七】 伊佐)

7. 西原町 = 2 集落 (一八. 呉屋・一九. 桃原)

単所型 = 2 集落 (一八. 呉屋・一九. 桃原)

【説明】 両集落は集落対抗の関係がある。桃原の石獅子は、宅地造成の際に掘り出されたもので、2 体あり、同じ石獅子屋に並列されている。そのため、単所型の双体型に属する。

8. 浦添市 = 1 集落 (二〇. 伊祖)

単所型 = 1 集落 (二〇. 伊祖)

【説明】 「火返しのシーサー」が伊祖公園 (旧伊祖グシク) 東の獅子山の獅子屋に焼物シーサーが 2 体 1 組で設置されている。この種の単所双体型は、獣口の開口・閉口を対とする戦後の焼物シーサーを設置する所に多い。

3) 沖縄県南部・南部島嶼

1. 那覇市 = 6 集落 (過去 9 集落) (二一. 首里汀良 (8 班)・二二. 若狭町・二三. 辻町・二四. 泉崎上泉・二五. 安次嶺・二六. 上間・【遺失八】首里山川・【遺失九】鏡水・【遺失一〇】垣花)

【説明】 那覇市内 (旧真和志市・旧首里市含む) は単体型が多い。火伏のシーサーの早期のものに、首里城附近の琉球王府の迎賓施設の御茶屋御殿 (ウチャヤウドウン・東苑・推定: 1670-1680 年代造営) の石獅子が挙げられる。1719 年に琉球国を訪れた徐葆光の『中山伝信録』巻第四「東苑」に「山巖下有石獅子石虎尚存」(山の崖下に石獅・石虎がなお存する) とある (造立当初先行する石虎と併立。後石虎が遺失する)。この石獅子は八重瀬嶽の火返して設置されたと伝わる。那覇市内各地に単体の火返しのシーサーが多く、影響が考えられる。首里汀良 8 班のシーサーは、焼物シーサーで単体である。坊主墓の魔物に向ける。なお、呉屋善昭氏の

【村守り神シーサー】は、山川の2体の石獅子の写真を掲載するが、性質不詳 [呉屋 2019]。

単所型 = 5 集落 (過去 7 集落) (二一. 首里汀良 (8 班)・二二. 若狭町・二三. 辻町・二四. 泉崎上泉・二五. 安次嶺・【遺失八】 首里山川・【遺失一〇】 垣花)

【説明】『那覇市史』「資料編」第 2 巻中の 7「那覇の民俗」によると、辻町のシーサーは辻町町内の奥村渠の獅子像とあり、1 体とある [平敷・那覇市企画部市史編纂室 1979:453]。城間弘史氏の御教示によると、獅子屋の中にしまわれ、一般的には見学できない。首里山川はヒエゲーシ (火返し) と呼ばれる獅子像が 1980 年代まで単独で立っていたが遺失した。

多所型 = 1 集落 (過去 2 集落) (二六. 上間・【遺失九】 鏡水)

【説明】『上間誌』は過去 5 体あったと記し、現存 3 体である。かつて下田バンタ (バンタ = 崖) 周辺に集中して配置した [上間誌編集委員会 2008:294]。現在ミートウダシーサー (夫婦獅子) 2 体・カンクワカンクワ 1 体があり、遺失したスムンターバンタのシーサーは、南山エージグシクもしくは八重瀬嶽に向いた。火返しのようである。もう 1 体は不詳。

鏡水の村落守護シーサーは現存しないが、かつて東・西・北に 3 体あった [平敷・那覇市企画部市史編纂室 1979:454]。

2. 豊見城市 = 11 集落 (二七. 真玉橋・二八. 饒波・二九. 田頭・三〇. 名嘉地・三一. 根差部・三二. 高安・三三. 渡嘉敷・三四. 高嶺・三五. 保栄茂・三六. 平良・三七. 翁長)

単所型 = 9 集落 (二八. 饒波・三〇. 名嘉地・三一. 根差部・三二. 高

安・三三・渡嘉敷・三四・高嶺・三五・保栄茂・三六・平良・
三七・翁長)

【説明】 豊見城市は単所型が多い。多所型がなく、多くとも双所型である。饒波は陶製シーサーと石獅子の2体を同所同方向に設置し、南に向ける。単所双体型といえる事例である（陶製シーサーは戦争で破壊されたシーサーの代わりである）。2体で辟邪の力を強化している。

保栄茂（びん）の石獅子は、近年もう1体みつかったが、呉屋善昭氏によると、家で代々伝えて来たもので、屋敷シーサーではないかという。

双所型 = 2集落（二七・真玉橋・二九・田頭）

【説明】 真玉橋は東と西のシーサーがあり、各個別方向に向けて石獅子を配置する。田頭のシーサーは頭石獅子で、2体ともほぼ同一の南西方向を向く。

3. 与那原町 = 5集落（三八・与那原中島・三九・与那原新島・四〇・上与那原・四一・大見武・四二・板良敷）

【説明】 与那原町の村落守護獅子は、市街部の字与那原では、かつての小字相当の中島区・新島区にそれぞれ2体ずつ村落守護シーサーがある。中島区のもの、1950年代以降にセメントシーサーが立てられて3箇所となったが、破損したため撤去した。『与那原町の史跡』は、「戦前の人、この獅子に囲まれた中が、村内（ムラウチ）であるという意識をもっていた」とあり、中島区・新島区合わせてシーサーが集落を囲んだ〔与那原町史編集室 1995:37〕。

単所型 = 2集落（四〇・上与那原・四一・大見武）

【説明】 上与那原の「火の獅子」は、山向こうの南城市大里区古堅に対しての火伏として設置され、上与那原と古堅の石獅子は、形態が類似する。

双所型 = 1 集落 (四二. 板良敷)

【説明】 崎原恒新氏の『板良式雑記(下)』によると、板良敷集落の石獅子は、「石仏」(イシブトキ)とも呼ばれる。かつて集落の南と北にあった。戦争で損失した後、1950年代に戦前に倣って2体新製したが、道路拡張工事で行方不明となり、現在は北の獅子が工事の際掘り出された [崎原 2004:11]。

多所型 = 1 地域 2 集落 (三八. 中島区・三九. 新島区)

【説明】 新島区と中島区は、双方のシーサーを合わせて与那原集落を囲む観念であるため、いずれも多所型とした。若山恵里氏の御教示によると、現存の4体は戦後現地の石工が4体並べて一度に彫ったとのことである。

4. 南風原町 = 3 集落 (四三. 兼城・四四. 本部・四五. 照屋)

【説明】 南風原町は、すべて双所型である。本部はかつて2箇所を立てられ、いずれも南に向いた。八重瀬嶽への火返しというが、石獅子の視線上にある隣接集落の照屋は、本部集落への返しとして、2箇所に石獅子を設置し、北に向ける。谷間を挟んだ集落間に、対抗関係がある事例である。ともに2所に1体ずつ石獅子を設置し、同一方向に向け、双所単方向型の配置である。

双所型 = 3 集落 (四三. 兼城・四四. 本部・四五. 照屋)

5. 南城市 (その1. 旧大里村) = 6 集落 (四六. 大里仲程・四七. 大里平良・四八. 大里南風原・四九. 大里古堅・五〇. 大里古堅島袋・五二. 大里大城)

【説明】 旧大里村は単所型が多い。仲程・大城以外の集落は単所型である。

単所型 = 4 集落 (四七. 大里平良・四八・大里南風原・四九・大里古堅・五〇. 大里古堅島袋)

双所型 = 1 集落 (五二. 大里大城)

【説明】 大里大城は、交通安全のために2000年に集落北・東端の国道沿いにセメント製の獅子を立てた。双所2方向型である。村落守護シーサーの条件の1つに、旧暦八月十五日が多い獅子拝みの儀式を行うことが挙げられるが、大城集落の獅子は、この行事はない。しかし敢えて最新の村落守護シーサーの造立事例とみなした。村落守護シーサーから排除しない方が、生産的である。村落守護シーサーの現代的な事例を知るための貴重な獅子だからである。【大里の文化財】は、「今も昔も厄除けに対して、獅子が持つ力をあらわしている一例である」と指摘する [大里村教育委員会2001:13]。

多所型 = 1 集落 (四六. 大里仲程)

【説明】 仲程集落は東・南・北の三方に石獅子を立てるが、それぞれ大里南風原集落の高嶺森・八重瀬嶽・運玉森と、すべて火山に向けている。火山に対して村落守護シーサーを設置することは、最古の八重瀬町富盛集落の富盛の石彫大獅子のように単所型が多いが、そうとは限らず、集落の防御として、3箇所もの火山に向ける。仲程集落が、運玉森と八重瀬嶽の間に位置するという地理的条件もあるだろう。

6. 南城市（その2. 旧佐敷町）= 3 集落（過去5 集落）（五二. 佐敷屋比久・五三. 佐敷屋比久外間・五四. 佐敷富祖崎・【遺失一一】佐敷津波古・【遺失一二】佐敷新里）

【説明】 旧佐敷村は舞獅子に集落間を越えた共同的性格を示す民俗観念がみられる。旧佐敷村の屋比久と津波古では、舞獅子は1対の意味で、守護獅子とされた。『津波古字誌』を引用する。「佐敷間切（マジリ）（間切は琉球王府の行政区画）では、〈東方〉（アガリカタ）の屋比久に雄獅子（ラウジーシ）、〈西方〉（イリーカタ）の津波古に雌獅子（ミージーシ）が各一頭ずつ配され、村（ムラ）の守護神的な役目を果たしていた」〔津波古字誌編集委員会2012:366〕。つまり、佐敷全体の伝統的行政区画範囲で、東と西に守護の獅子舞があった。呉屋善昭氏によると、屋比久・津波古両集落は元は1つの集落であったという言い伝えがある。

村落守護シーサーは、知念半島一帯の辟邪の対象チカヌハナーに関わるものがある。これは知念半島中央部にある宿納森の崖で、火山である。南城市佐敷屋比久の後東門小後方のシーサーと、佐敷津波古は3体の石獅子のうち、集落北東のアラシナーバルの石獅子がチカヌハナーに向く。

『佐敷町史』によれば、佐敷新里にもノロ殿内（ドゥンチ）にシーサー1対があった。各個南東の親慶原の赤石と南西の名合原の石ザンに向き、単所2方向型で集落を護り、村落守護シーサーの範疇に数える〔佐敷町史編集委員会（編）1984:334〕。

単所型 = 1 集落（過去2 集落）（五四. 佐敷富祖崎・【遺失一二】佐敷新里）

多所型 = 2 集落（過去3 集落）（五二. 佐敷屋比久・五三. 佐敷屋比久外間・【遺失一一】津波古）

【説明】『佐敷町史』によれば、佐敷屋比久（現在2体）と佐敷屋比久外間（現在1体）は過去3体の石獅子があった〔佐敷町史編集委員会 1984:334〕。津波古も3体があった。

7. 南城市（その3.旧知念村）= 4集落（五五.知念海野・五六.知念久手堅・五七.知念知念・五八.知念具志堅）

【説明】知念久手堅以外は、ともに背後の山（知念海野は山中の古墓）に向かう。中央に宿納森（スクナムイ）があり、火山である岩場チカヌハナーなども屹立する知念半島特有の峻厳な地理的条件が反映される。

単所型 = 1集落（五五.知念海野）

双所型 = 1地域2集落（五七.知念知念・五八.知念具志堅）

【説明】長嶺操氏は、知念具志堅の石獅子はもとは知念知念集落の石獅子であったとする〔長嶺 1982:110-111〕。これに従うと双所型である。表記は2集落に分かれるが、1地域扱いで考える。

多所型 = 1集落（五六.知念久手堅）

【説明】かつては3箇所シーサーがあり、東と北のシーサーは消失した。現在は鍛冶屋のあったガマ（洞窟）に向かう火伏の石獅子1体のみ遺る。

8. 南城市（その4.旧玉城村）= 6集落（過去8集落）（五九.玉城糸数・六〇.玉城當山・六一.玉城屋嘉部・六二.玉城中山・六三.玉城百名・六四.玉城前川・【遺失一三】玉城仲村渠・【遺失一四】玉城富里）

【説明】旧玉城村は隣接する八重瀬町とともに多所型の集中地帯であ

る。総じて集落の四隅に四方に向けて石獅子を立てる。石獅子の形も共通性があり、たてがみありとたてがみなしの2類型がある。最多は玉城中山の5体と玉城百名の過去5体であり、沖縄県内では、宜野湾市喜友名集落の8体に続き2番目に村落守護シーサーが多い(八重瀬町志多伯も5体であり、中部の勝連南風原も過去5体であった)。玉城中山集落では、中央東と中央西に各1体設置し、北方・東方の石獅子以外は、海上の奥武島を向く。

玉城當山と玉城屋嘉部は、集落四方に石獅子を設置している。糸数も4体の石獅子があり、集落出口に設置する。サーターヤー出口のシーサーが火返しの石獅子である(南東を向き、玉城グシクに向くようである)。糸数は西に向く石獅子がない。玉城前川は3体で、すべて南側の谷間に向く。

村落守護シーサーが遺失した集落では玉城仲村渠の事情が興味深い。呉屋善昭氏の御教示によると、隣接する垣花集落からの要請で、石獅子を撤去した。風水上の悪影響があると隣接集落が考えたためである。なお、遺失した富里の村落守護シーサーの過去の状況は不詳。

単所型 = 無 (過去1集落) (【遺失一】 仲村渠)

多所型 = 6集落 (五九. 玉城糸数・六〇. 玉城當山・六一. 玉城屋嘉部・
六二. 玉城中山・六三. 玉城百名・六四. 玉城前川)

9. 八重瀬町 (その1. 旧東風平村) = 6集落 (六五. 富盛・六六. 東風平・
六七. 宜次・六八. 小城・六九. 伊覇・七〇. 志多伯)

【説明】 富盛は単所型で、1689年造立の最古の村落守護シーサーは、500mほどしか離れていない火山である八重瀬嶽に向く。

小城の石獅子は、呉屋善昭氏の御教示によれば、當銘集落同様、集落の人口繁栄を祈願する陽具形の石柱である。しかし小城の石獅子は、龕屋に向いているので、その意味では村落守護シーサーとしての性格を有するといえる。

多所型の最多は志多伯で、5体の石獅子があり、県内の村落守護シーサーの数が、宜野湾市喜友名の8体に次ぎ、2番目に多い(玉城中山・過去の玉城百名・過去の勝連南風原と同等)。志多伯は、1箇所にてミートウンダシーサー(夫婦獅子)を設置するが、個別の方向を向く。志多伯では石獅子を集落上の設置した位置から、卯ヌ端のシーサーなどと呼ぶ。東風平も4箇所に石獅子を設置し、卯ヌ方のシーサーなどと呼ぶ。宜次も4箇所で、卯ヌ方のシーサーなどと呼ばれ、いずれも四方に石獅子を置く観念がみられる[城間 2019]。

単所型 = 3集落 (六五. 富盛・六八. 小城・六九. 伊覇)

多所型 = 3集落 (六六. 東風平・六七. 宜次・七〇. 志多伯)

10. 八重瀬町(その2. 旧具志頭村) = 3集落 (七一. 具志頭・七二. 新城・七三. 安里)

単所型 = 1集落 (七一. 具志頭)

双所型 = 1集落 (七三. 安里)

【説明】 1体破損し、旧馬場のシーサームイグウアー(獅子森小)の獅子墓に埋められている[長嶺 1982:182]。

多所型 = 1 集落 (七二. 新城)

【説明】 新城集落は、北の石獅子が1980年代盗難に遭う。元4箇所である。

11. 糸満市 = 6 集落 (過去7集落) (七四. 照屋・七五. 座波・七六. 与座・七七. 国吉・七八. 大里・七九. 名城・【遺失一五】真栄平)

【説明】 糸満市は元来国吉以外は単所型であった。遺失した真栄平は不明。

単所型 = 5 集落 (七四. 照屋・七五. 座波・七六. 与座・七八. 大里・七九. 名城)

双所型 = 1 集落 (七七. 国吉)

【説明】 長嶺操氏の『写真集 沖縄の魔除け獅子』によれば、国吉は元来2体の村落守護シーサーがあったが〔長嶺 1982:232〕、戦後長らく南の石獅子1体のみであった。東の石獅子が、2000年に新設された。

12. 座間味村 = 2 集落 (八〇. 座間味村阿真・八一. 座間味村阿嘉)

【説明】 座間味島に1体と阿嘉島に2体がある。

単所型 = 1 集落 (八〇. 座間味村阿真)

【説明】 大正時代に本島の祈禱師の指示で立てられた〔座間味村史編集委員会 1989b:643〕。集落後方の山から来る悪いものを返す。

双所型 = 1 集落 (八一. 座間味村阿嘉)

【説明】 阿嘉島阿嘉集落では、マタキ獅子山とシムンダカリ獅子山に1体ずつ素焼きのシーサーが海側に設置されるが、マタキとシム

ンダカリは集落内の区分で、各個立てる。城間弘史氏の『村獅子大全』に載る〔城間 2019〕。ただ、シーサーは、開口・閉口で対偶であり、故に集落全体として扱って番号を付し、双所2方向型とする〔座間味村史編集委員会 a 1989b:646-647〕。

4) 八重山諸島

1. 石垣市 = 1 集落 (過去 2 集落) (八二. 伊原間・【遺失一六】 大浜)

【説明】 琉球王府の官僚鄭良佐は 1863 年八重山諸島の集落の風水を鑑定し、『北木山風水記』(1864) を著す。舟越村の項に「酉戌方、其山中間有悪石直向村中、不吉。宜坐獅子以制其凶、乃吉」(酉戌の方位には、その山中に悪石があり、直に村中に向かい、不吉である。宜しく獅子を坐してその凶を制するべきであり、そうすれば吉となる) とあり、山中の露出した悪石に対して獅子を設置するよう勧める。現在も伊原間集落に焼物シーサー 1 体を設置する。なお、獅子は現存しないが、石垣島大浜村は「番所寅方有悪石、不吉。宜坐獅子、以制其凶、乃吉」(番所は、寅の方位に悪石があり、不吉である。獅子を坐して宜しくその凶を制するべきで、そうすれば吉となる) とある。また、西表島の祖納村は、獅子は現存しないが、「村中有悪石而直向人家、不吉。宜因旧塞道栽樹、又各所當之人家坐獅子以避其凶」(村中に悪石があって、直に人家に向かい、不吉である。宜しく元のとおり道を塞ぎ、樹を伐り、また悪石に向く人家は、獅子を坐すべきであって、そうすればその凶は避けることができる) とある。ただし、各戸毎に獅子を立てる指示なので、屋敷獅子に属する。石垣島は元来は 2 箇所と思われる。

単所型 = 1 集落 (過去 2 集落) (八二. 石垣市伊原間・【遺失一六】 大浜)

2. 竹富町 = 1 島域 2 集落 (八三. 波照間名石・八四. 波照間富嘉)

多所型 = 1 島域 2 集落 (八三. 波照間名石・八四. 波照間富嘉)

【説明】 波照間島は、富嘉集落北郊と名石集落北郊のコート盛（遠見台）に、2 体の石獅子が現存する。いずれも、西表島の鹿川湾にある波照間喰い石（パティロックウエーズ）に向ける。泉武氏の『沖縄学事始』（人文書院 HP 掲載の同氏『私的沖縄学事始』にも別文で記載）によると、富嘉集落と名石集落には 1 体ずつ石獅子があり、1 体は西表島に向き、さらに 1 体は与那国島に向けた [泉 2011:154-158; 掲載年不詳 (HP)]。石獅子はムラボギイシとも呼ばれ、「村を保護する石」の意味があるものの、波照間島を喰おうとする岩への対抗であることから、一方で島単位で他の島の風水的影響に対抗する意味もあると思われ、多所型とした。現在は 2 体遺失し、双所単方向型といえる。泉武氏によると、石獅子は 300 年以上前に沖縄本島から流されてきた稲福里之子という流刑者が設置させた伝承があり、その旅妻の子孫が 3 箇所石獅子を管理してきたという [泉 2011:154-158; 掲載年不詳 (HP)]。

三. 結論

保存されたシーサー 4 箇所 4 体を除き、総集落数 84 箇所・総数 149 体の村落守護シーサーの分布は、沖縄本島南部が大多数を占め、集落数 61 箇所、個体数は 104 体に達する（集落数 73%・個体数 70%・以下小数点以下四捨五入）。いずれも 7 割程度である。対して北部は 5 集落 12 体（集落数 6%・個体数 8%）、中部は 15 集落 30 体（集落数 15%・個体数 20%）で、宜野湾市が多いが、北上するにつれて少なくなる。南部が圧倒的に多いのは、琉球王府の風水鑑定から始まった沖縄村落守護シーサーが、最古の八重

瀬町富盛の石彫大獅子など、南部地域が分布の中心であったからである。

なお、八重山諸島は3集落3体である(集落数4%・個体数2%)。八重山諸島や慶良間諸島などの島嶼部では、慶良間諸島の座間味島の石獅子は、大正時代に沖縄本島の祈禱師が設置を勧め、八重山諸島では、石垣島伊原間の獅子は琉球王府の風水師の鑑定により設置され、波照間島の石獅子も、流刑者が設置を勧め、これらは沖縄本島からの伝播と考えられる。

多所型の集落は北部でも多い。村落守護シーサーの分布で最北端に位置する島嶼部の伊平屋村田名(3箇所)も多所型である。宜野座村松田(過去4箇所)や惣慶(3箇所)のように、宜野座村に多所型が集中している。北部で注目すべきは、双方向型の集落が複数あり、集落道路の双方向に村落守護シーサーを村外に向けて立てるといった特徴がみられる(東村慶佐志・名護市宇茂佐)。これは設置の様態で注目すべき類型であり、後述するように、双方向型の小類型として捉えておきたい。

中部はうるま市の島嶼部で与那城伊計(3箇所)・勝連津堅(過去3箇所)、半島部では勝連南風原が過去5箇所であり、多所型も多い。ただし沖縄市は、古謝(過去一時期3箇所)のみが多所型である。嘉手納町(野里)・北中城村・中城村・西原町などは、単所型である。

宜野湾市は、我如古(過去4箇所)・喜友名(現在8箇所・過去10箇所)で、喜友名が沖縄県最多の村落守護シーサーを有するが、碁盤目のような集落構成から、集落の角隅に石獅子を設置し、集落の拡大とともに石獅子も増え、位置も前進する。ただ、伊佐集落は4箇所すべて集落東辺に集中して配置し、他の2集落とは配置の様相が異なる。

南部では、那覇市と豊見城市に単所型が多い。那覇市では、火山に特化して単体で村落守護シーサーを設置する事例が多いようである。あるいは上聞のように、明確に火山に向かい、2方向に置く集落がある。那覇市内では、ガジャンピラが最寄りの火山であり、これに向かい立てる必要もあった。

豊見城市は単所型が多く、あるいは双所型でも、ガーナ森(ムイ)など、

特定の辟邪対象に向ける事例が多いが、龕との関わりが深い点も特徴である。

南風原町は双所型が多い。照屋と本部は2箇所の石獅子を単方向に設置する。照屋は隣接の本部集落に向け2体設置し、村落守護シーサーの辟邪の力量を強化し、本部・照屋両集落の対抗関係を反映する（兼城は2方向）。

対して与那原町では、市街部は与那原中島・与那原新島が合わせて村を囲む観念があり多所型に属し、板良敷が双所型で、上与那原集落・大見武集落が単所型であり、設置様態は多様である。

南城市は豊見城市に隣接する南城市旧大里村北部のみ単所型が集中している。旧知念村は知念知念が双所型、久手堅が多所型、知念海野が単所型で設置様態が異なる知念具志堅の石獅子の1体は知念知念の石獅子とされる。

南城市旧玉城村は多所型が多く、八重瀬町も多所型が多い。いずれも5箇所を設置する集落がある。宜野湾市喜友名の8箇所に次いで、南城市玉城中山は5箇所であり、玉城百名は過去5箇所であり、玉城屋嘉部・玉城當山は、集落の四周を村落守護シーサーで固める意識がある（糸数も4箇所に設置するが、集落四周の設置ではない）。

八重瀬町では、旧東風平村で最古の村落守護シーサーを有する富盛が単所型にもかかわらず、単所型は小城・伊覇があるだけで、小城は龕に向く。集落四周に村落守護シーサーを配置する意識が強いのは、東風平（4体）・宜次（4体）・志多伯（5体）で、子・丑・酉・午の四方を村落守護シーサーの名に冠して呼ぶことから理解できる。

ところが反面、糸満市内の集落では元来は国吉を除き、すべて単所型である。また、八重瀬町でも富盛の沖縄県最古の村落守護シーサーは単所型である。

以上、特定の辟邪対象に向ける意識で村落守護シーサーを立てる単所型と、集落四周の守護を意識して村落守護シーサーを立てる多所型と、村落守護シーサーの配置の意識は分かれているとみることができる。

興味深い点は、双所型については、幾つか種類があることである。

- a. 双所2方向型 A = 集落道路の2方向に村落守護シーサーを村外に向けて立てる (東村慶佐志・名護市宇茂佐等)。
- b. 双所2方向型 B = 集落隅の2箇所に個別の辟邪対象に向けて立てる (南風原町兼城等)。
- c. 双所単方向型 = 集落2箇所に同一方向に向けて村落守護シーサーを立てる。殊に南風原町本部集落と南風原町照屋集落にみられるように、集落双方間に対抗関係がある場合がある。これは2箇所に獅子を置いて同一方向に向けてすることで、辟邪力を強化する措置であろう。

辟邪力強化の事例は単所型や多所型にもあり、豊見城市饒波のシーサーは、単所に2体のシーサーを設置し、隣接する平良集落のアチャーヤーガマに向け、単所単方向双体型である。南城市玉城前川集落は、3箇所3体の石獅子がいずれも南西方向の谷間に向く。多所単方向型というべき配置であるといえる。これらの事例も一定方向に対して呪力を結集して強化する。

辟邪の力量をシーサーの結集により高める事例を最後に挙げたが、沖縄村落守護シーサーの役割を考察するには、辟邪の力量や対象への考察が欠かせない。本論考では村落毎の設置数や設置形態からこの点について考察したが、次回論考は沖縄村落守護シーサーの辟邪対象の様相に主題を絞って論じる。

謝辞：沖縄村落守護シーサーの調査と本論文の作成に当たり、呉屋善昭氏・城間弘史氏・若山恵里氏と夫君の若山大地氏より多大なる御教示を賜りました。また、松尾直子氏より多種に及ぶ貴重な村落守護シーサー関連資料の御提供を賜りました。この場を借りて衷心より感謝・御礼申し上げます。

参考文献

a. 沖縄村落守護シーサー (五十音順)

泉 武 (著) 2011『沖縄学事始』東京：同成社

泉 武 (著) 掲載年不詳『私的沖縄学事始』人文書院 HP 掲載

<http://jimbunshoin.co.jp/rmj/oki.htm>

川野 明正 (著) 2021「沖縄村落守護シーサーの類型分類と地域分布—シナ海石造獅子・狗犬文化圏の比較研究(4)」明治大学教養論集刊行会(編)『明治大学教養論集』No.552:61-88頁

呉屋 善昭 2019(写真)『村守り神シーサー』(2019年版)私家本

城間 弘史 2019(写真)『村獅子大全』(2019年版)私家本

スタジオ de-jin (若山大地・若山恵里) (著) 刊行年不詳 a『沖縄裏観光—石獅子探訪編』首里：スタジオ de-jin

スタジオ de-jin (若山大地・若山恵里) (著) 刊行年不詳 b『石獅子探訪—糸満市・豊見城市編』首里：スタジオ de-jin

スタジオ de-jin (若山大地・若山恵里) (著) 刊行年不詳 c『石獅子探訪—南風原町・八重瀬町』首里：スタジオ de-jin

鈴木 一馨 (著) 2012「沖縄本島における抱護と村獅子の分布について」『歴史地理学』第54巻第4号:60-61頁

鈴木 一馨 (著) 2014「沖縄本島における村獅子の分布について」『宗教研究』87巻別冊:412-413頁

長嶺 操 (著) 1981「沖縄の獅子」『興南研究紀要』第七号:48-81頁

長嶺 操 (著) 1982『写真集 沖縄の魔除け獅子』具志頭：沖縄村落史研究所

平敷 令治 (著) 1995[1990]『沖縄の祭祀と信仰』東京：第一書房、第2刷 [初版]

若山 大地・若山 恵里 (著) 2019「沖縄の石獅子—沖縄本島の村落獅子四十五体の解説」『民藝』編集委員会(編)『民藝』(特集：沖縄の石獅子)795号、東京：日本民藝協会:11-25頁

b. 地方誌等地域毎の村落守護シーサー資料 (北から南の地域順)

[島尻郡] (島尻郡は以下伊平屋村・与那原町・南風原町・八重瀬町・座間味村を含む)

島尻郡誌(続)編集委員会(編)1977『島尻郡誌(続)』那覇：南部振興会

[伊平屋村] (島尻郡)

諸見 清吉(編)1981『伊平屋村史』伊平屋：伊平屋村史発刊委員会

屋嘉 宗克(著)1963『島の民間信仰について』『沖大論叢』第3巻第2期:35-47頁

[東村]

東村史編集委員会(編)1987『東村史』東村：東村役場

[宜野座村]

字松田教育振興委員会(編)1977『(宜野座村)松田の歴史』松田：字松田教育振興委員会

宜野座村字惣慶区(編)1978『惣慶誌』惣慶：宜野座村惣慶区

宜野座村教育委員会(編)2016『惣慶のイシガントウ(西側：恩納岳の〈返し〉)』(文化財説明板)

宜野座村誌編集委員会(編)1989『宜野座村誌』第三巻「資料編」Ⅲ「民俗・自然・考古」宜野座：宜野座村役場

[うるま市]

若山 大地・若山 恵里(著)2016『歩いて見つけた 石獅子探訪記〈その6〉南城市の巻〈1〉』『琉球新報 Style』2016年08月21日

<https://ryukyushimpo.jp/style/article/entry-337374.html>

中頭郡勝連町字南風原字誌編纂委員会(編)2000『勝連町南風原字誌』(勝連町)南風原：南風原公民館

[沖縄市]

沖縄市教育委員会(編)2002『沖縄市の遺跡—第2次分布調査報告書』(『沖縄市文化財調査報告書』第28集)沖縄：沖縄市教育委員会

胡屋誌編集委員会(編)1994『胡屋誌』胡屋：沖縄市胡屋共有会

沖縄市教育委員会(著)設置年不詳『山里のシーサー』(文化財説明板)

古謝誌編集委員会(編)1999『古謝誌』古謝：古謝自治会

[嘉手納町]

字野里誌編集委員会(編)2004『字野里誌』嘉手納：嘉手納町野里共進会

[北中城村]

北中城村教育委員会(著)設置年不詳『喜舎場の石獅子(シーサー)』(文化財説明板)

北中城村史編纂委員会(編)1996『北中城村史』第二巻「民俗編」喜舎場：北中城村役場

[宜野湾市]

宜野湾市史編集委員会(編)1985『宜野湾市史』第五巻「資料編」四・「民俗」野嵩：宜野湾市

- 嘉数区自治会(編)1986『嘉数区公民館兼体育館落成記念』嘉数:嘉数区自治会
宜野湾市教育委員会(編)設置年不詳a「喜友名石獅子群」(文化財説明板)
宜野湾市教育委員会(編)設置年不詳b「喜友名歴史文化遺産マップ」(文化財説明板)
宜野湾市教育委員会(編)1997『喜友名区文化財マップ』野嵩:宜野湾市教育委員会
喜友名字誌編集委員会(編)2015『ちゅんなー喜友名誌』喜友名:喜友名区自治会
伊佐誌編集委員会(編)2011『伊佐誌』伊佐:字伊佐財産保存会・宜野湾市伊佐区自治会

[浦添市]

- ハイホー(著)掲載年不詳「伊祖の獅子屋」HP「ハイホーの沖縄散歩=中部地区」
<http://sanpo.ifdef.jp/cyubu/isosisi.html>

[西原町]

- 西原町生涯学習課(著)掲載年不詳「呉屋の石獅子」HP「西原町」
<http://www.town.nishihara.okinawa.jp/asset/38goyanoishizishi.html>

[那覇市]

- 平敷 令治(著)・那覇市企画部市史編集室(編)1979『那覇市史』「資料編」第2巻中の7「那覇の民俗」那覇:那覇市企画部市史編集室(平敷担当部分は、第5章第1節「神仏の信仰」)
著者不詳(著)掲載年不詳「首里汀良町8班のシーサー」HP「首里あるき」
<http://shuri-aruki.jp/siseki/2014/03/8.html>
若狭1丁目自治会(編)2014『若狭1丁目自治会50周年記念誌—50年のあゆみ』
若狭:若狭1丁目自治会
上間誌編集委員会(編)『上間誌』上間:上間自治会

[豊見城市]

- 豊見城村史編纂委員会(編)1964『豊見城村史』豊見城:豊見城村役場
豊見城村教育委員会(著)2002『豊見城村の文化財』豊見城:豊見城村教育委員会
豊見城市教育委員会(著)2008『豊見城市史』第二巻「民俗編」豊見城:豊見城市
豊見城市教育委員会(著)2013『保栄茂グスク(保栄茂城跡)』(文化財説明板)
豊見城市教育委員会(著)2014『田頭のシーサー(石獅子像)』(文化財説明板)
豊見城市教育委員会(著)2015『宇豊見城のシーサー(石獅子)』(文化財説明板)
豊見城市教育委員会(著)2016『字渡嘉敷のシーサー』(文化財説明板)
豊見城市教育委員会(著)2016『字根差部のシーサーと三月遊び(サングワチャー)』(文化財説明板)

豊見城市教育委員会 (著) 2017「名嘉地のシーサー」(文化財説明板)

豊見城村教育委員会文化課 (著) 2001「龕と龕ゴウ祭について」豊見城市教育委員会

文化課 (編)『豊見城村史だより』第6号: 豊見城市教育委員会文化課: 1-34 頁

豊見城市字保栄茂字史編纂委員会 (編) 2001『保栄茂ぬ字史』保栄茂: 豊見城市
字保栄茂自治会

[与那原町] (島尻郡)

与那原町史編集委員会 (編) 1988『与那原町史序説一むかし与那原』与那原: 与
那原町役場

与那原町史編集室 (編) 1995『与那原の史跡』与那原: 与那原町教育委員会

若山 大地・若山 恵里 (著) 2017「歩いて見つけた 石獅子探訪記 (その14)

与那原町の巻」『琉球新報 Style』2017年2月19日

<https://ryukyushimpo.jp/style/article/entry-443816.html>

与那原町立網曳資料館 (編) 掲載年不詳、HP『与那原町立網曳資料館』「歴史 / 文
化財」

www.town.yonabaru.okinawa.jp/shiryokan/list_map.html#top

崎原 恒新 (著) 2004『板良式雑記 (下)』板良敷: 私家本

板良敷誌刊行委員会 (編) 2014『板良敷誌』板良敷: 板良敷公民館

[南風原町] (島尻郡)

南風原町史編集委員会 (編) 2002『むかし南風原は』(『南風原町史』第五巻「考古
編」) 南風原: 沖縄県南風原町役場

南風原町史編集委員会 (編) 2003『シマの民俗』(『南風原町史』第六巻「民俗資料
編」) 南風原: 沖縄県南風原町役場

南風原町教育委員会 (編) 1991『南風原の文化財』(『文化財要覧』第三集) 南風原:
沖縄県南風原町役場

比嘉 佑 (著) 2004「南風原町の石獅子に関する由来・伝説について」『南風原文
化センター紀要 南風の杜』第10号、南風原文化センター: 60-62 頁

兼城字誌編集委員会 (編) 2006『兼城字誌』兼城: 字兼城

[南城市]

大里村教育委員会 (編) 2001『大里の文化財』大里: 大里村役場

佐敷町史編集委員会 (編) 1984『佐敷町史』2「民俗」佐敷: 佐敷町役場

津波古字誌編集委員会 (編) 2012『津波古字誌』佐敷津波古: 字津波古自治会

知念村史編集委員会 (編) 1983『知念村史』第一巻「資料編」I「知念の文献資料」
知念: 知念村役場

玉城村史編集委員会 (編) 2004『玉城村史』玉城: 玉城村役場

當山誌編集委員会(編)2008『南城市玉城 當山誌』玉城當山：當山誌編集委員会
 玉城字前川誌編集委員会(編)1986『玉城字前川誌』玉城前川：玉城字前川誌編
 集委員会

[八重瀬町] (島尻郡)

八重瀬町教育委員会(編)2008『八重瀬の文化財』(『八重瀬町文化財要覧』第1集)

具志頭：八重瀬町教育委員会

知念 善栄(編)1976『東風平村誌』東風平：東風平村役所

富盛字誌編集委員会(編)2004『富盛字誌』富盛：富盛公民館

[糸満市]

名嘉山 敏子・砂川 光弘(編纂)1982『与座泉水—高嶺間切与座村史』南風原町
 山川：南部農業改良普及所

大里字誌編集委員会(編)2009『大里字誌』大里：糸満市大里公民館

[座間味村] (島尻郡)

座間味村史編集委員会(編)1989a『座間味村史』上巻「自然・歴史・産業」座間
 味：座間味村役場

座間味村史編集委員会(編)1989b『座間味村史』中巻「教育文化・社会・民俗」
 座間味：座間味村役場

[石垣市]

石垣市総務部市史編纂室(編)1997『石垣村むら探訪—安良の歴史・生活・自然』
 (『石垣市史巡見』Vol.5) 石垣：石垣市

前上里 栄吉(発行責任)1993『伊原間村誌』伊原間：石垣市伊原間公民館

表. 沖縄村落守護シーサー一覽表

集落 番号	設置 番号	行政 単位	集落名	呼称	集落 上の 位置	方位	類型	設置 様態	法量 (単位はcm)
一	1	伊平屋村	田名	ウフガー(大井戸) のシーサー	東	東南東	焼物シーサー	多所型 (3箇所)	H69・ L53・W33
一	2	伊平屋村	田名	イリジョー(西門) のシーサー	西	西南西	焼物シーサー	多所型 (3箇所)	H47・ L42・W26
一	3	伊平屋村	田名	サホーのシーサー	北	南西	焼物シーサー	多所型 (3箇所)	H74・ L48・W32
二	1	東村	慶佐次	南のシーサー	南	南西	シナ海向天眼型 石獅子	双所型 (2方向)	H50・ L48・W26
二	2	東村	慶佐次	北のシーサー	北	北	現代型蹲踞石獅子	双所型 (2方向)	H50・ L57・W35

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位はcm)
三	1	名護市	宇茂佐	東のシーサー	東	東南東	焼物シーサー	双所型 (2方向)	H42・ L33・W18
三	2	名護市	宇茂佐	西のシーサー	西	北北西	焼物シーサー	双所型 (2方向・ 双体型)	計測不能
三	3	名護市	宇茂佐	西のシーサー	西	北北西	焼物シーサー	多所型 (2方向・ 双体型)	計測不能
四	1	宜野座村	松田	石敢當・ ウマクツァー(馬小)	東	東南東	宜野座石敢當型 石獅子	過去 多所型 (4箇所)	H37・ L75・W36
五	1	宜野座村	惣慶	東の石敢當	東	東北東	宜野座石敢當型 石獅子	多所型 (3箇所)	H37・ L75・W33
五	2	宜野座村	惣慶	西の石敢當	西	西北西	宜野座石敢當型	多所型 (3箇所)	H37・ L75・W34
五	3	宜野座村	惣慶	北の石敢當	北	北北東	宜野座石敢當型 石獅子	多所型 (3箇所)	H37・ L75・W35
六	1	うるま市	与那城 跡辺		南	北北東	蹲踞石獅子	単所型	H45・ L49・W24
七	1	うるま市	与那城 伊計	イツクマ浜のシーシ	南	南南東	自然石型石獅子	多所型 (3箇所)	H91・ L209・W44
七	2	うるま市	与那城 伊計	シーシ	南	南西	蹲踞石獅子	多所型 (3箇所)	H40・ L65・W28
七	3	うるま市	与那城 伊計	シーシ	南	北東 (本来は 南西)	蹲踞石獅子	多所型 (3箇所)	H36・ L48・W33
八	1	うるま市	勝連津堅	南の石獅子	中	北北西	石柱上に彫られる	過去 多所型 (3箇所)	H48・ L36・W23
八	2	うるま市	勝連津堅	北の石獅子	北	北北東	蹲踞石獅子	過去 多所型 (3箇所)	H54・ L25・W28
九	1	うるま市	勝連 南風原	南西の石獅子	南西	西南西	勝連南風原型 蹲踞石獅子	過去 多所型 (5箇所)	H24・ L30・W32
九	2	うるま市	勝連 南風原	北西の石獅子	北西	西北西	勝連南風原型 蹲踞石獅子	過去 多所型 (5箇所)	H40・ L63・W40
一〇	1	うるま市	高江洲	シーサーヤーモー	南	南 (過去 北東)	胡屋・山里型 蹲踞石獅子	単所型	H・50 L50・W65
一一	1	沖縄市	胡屋		中	南南西	胡屋・山里型 蹲踞石獅子	単所型	H36・ L55・W36
一二	1	沖縄市	山里		東	東	胡屋・山里型 蹲踞石獅子	単所型	H70・ L78・W45
一三	1	沖縄市	古謝	アガリヌシーサー	東	南	二本足立ち 石獅子・類例なし	多所型 (一時期 3箇所)	H74・ L55・W64
一三	2	沖縄市	古謝	ニシヌシーサー	北	南	立石獅子(蹲踞石獅子 かもしれない)	多所型 (一時期 3箇所)	H34・ L51・W30
一四	1	北中城村	喜舎場		北 (過去 南西)	南 (南西)	蹲踞石獅子	単所型	H52・ L103・W50
一五	1	宜野湾市	我如古		中	西南西	蹲踞石獅子	過去 多所型 (4箇所)	H100・ L60・W50
一六	1	宜野湾市	嘉数		北 (過去 南)	西南西	焼物シーサーが セメント型取りで セメントシーサーに 変化	単所型 (現在は 2体設置)	H50・ L49・W29

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位はcm)
一六	2	宜野湾市	嘉数		北	西南西	自然石型 (加工)石獅子	単所型 (現在は 2体設置)	H139・ L219・W84
一七	1	宜野湾市	喜友名	クラニーグワー前の シーサー	中	南南東	喜友名型横臥 石獅子	多所型 (現在は 8箇所・ 過去2体 消失)	H30・ L46・W23
一七	2	宜野湾市	喜友名	トゥクイリーグワー前の シーサー	東	北東 (過去 北北東)	喜友名型立石獅子	多所型 (現在は 8箇所・ 過去2体 消失)	H65・ L110・W45
一七	3	宜野湾市	喜友名	ナカムトゥ前の シーサー	西	南 (過去 南南東)	喜友名型立石獅子	多所型 (現在は 8箇所・ 過去2体 消失)	H50・ L74・W40
一七	4	宜野湾市	喜友名	ヒージャグワー (直訳「山羊瘤」)	西 (過去 中)	北西	蹲踞石獅子(直立)	多所型 (現在は 8箇所・ 過去2体 消失)	H64・ L50・W32
一七	5	宜野湾市	喜友名	メームシチ前の シーサー	南	南	喜友名型立石獅子	多所型 (現在は 8箇所・ 過去2体 消失)	H40・ L70・W32
一七	6	宜野湾市	喜友名	イリーグワー前の シーサー	南東	東	喜友名型横臥 石獅子	多所型 (現在は 8箇所・ 過去2体 消失)	H30・ L46・W23
一七	7	宜野湾市	喜友名	メントー前の シーサー	南西	南西	頭獅子型石獅子	多所型 (現在は 8箇所・ 過去2体 消失)	H42・ L73・W40
一七	8	宜野湾市	喜友名	メートーヤマ前の シーサー	北	北北西	頭獅子型石獅子	多所型 (現在は 8箇所・ 過去2体 消失)	H38・ L40・W45
一八	1	西原町	呉屋		北	南南西	蹲踞石獅子	単所型	H47・ L59・W20
一九	1	西原町	桃原		北	北東	立石獅子	単所型 (双体型)	H55・ L74・W30
一九	2	西原町	桃原		北	北北西	立石獅子	単所型 (双体型)	H52・ L68・W32
二〇	1	浦添市	伊祖	火返しシーサー	北	西南西	焼物シーサー	単所型 (双体型)	計測不能
二〇	2	浦添市	伊祖	火返しシーサー	北	西南西	焼物シーサー	単所型 (双体型)	計測不能
二一	1	那覇市	首里汀良 (8班)		中	南南東	焼物シーサー	単所型	H52・ L36・W25
二二	1	那覇市	若狭	火の神シーサー	中	西	現代普及型 蹲踞石獅子	単所型	H31・ L31・W20
二三	1	那覇市	辻		南	南西	焼物シーサー	単所型	計測不能
二四	1	那覇市	泉崎上泉	シーサーマチュウ (獅子松尾=林) の石獅子	南	南西	現代普及型 蹲踞石獅子	単所型	H77・ L77・W27

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位11cm)
二五	1	那覇市	安次嶺		南東	西	蹲踞石獅子	単所型	H78・ L68・W53
二六	1	那覇市	上間	カンクウカンクウ	南東	南	上間型頭石獅子	過去 多所型 (4箇所)	H56・ L44・W76
二六	2	那覇市	上間	ミートウダシーサー (夫婦獅子)	南東	南東	上間型頭石獅子	過去 多所型 (4箇所) (双体型)	H62・ L80・W56
二六	3	那覇市	上間	ミートウダシーサー (夫婦獅子)	南東	南東	上間型頭石獅子	過去 多所型 (4箇所) (双体型)	H53・ L80・W56
二七	1	豊見城市	真玉橋	アガリヌシーサー	東	北北東	立石獅子	双所型 (2方向)	H68・ L73・W41
二七	2	豊見城市	真玉橋	イリヌシーサー	西	西南西	セメントシーサー	双所型 (2方向)	H67・ L67・W36
二八	1	豊見城市	饒波		南	南	蹲踞石獅子	単所型 (双体型)	H78・ L56・W39
二八	2	豊見城市	饒波		南	南	焼物シーサー	単所型 (双体型)	H89・ L54・W39
二九	1	豊見城市	田頭	東の石獅子	北東	南南西	田頭型頭石獅子	双所型 (単方向)	H50・ L82・W36
二九	2	豊見城市	田頭	西の石獅子	南西	南西	田頭型頭石獅子	双所型 (単方向)	H38・ L77・W35
三〇	1	豊見城市	名嘉地	シーサーヌメー (獅子の前)の シーサー	西	南南西	蹲踞石獅子	単所型	H88・ L75・W40
三一	1	豊見城市	根差部		中	西	根差部・渡嘉敷型 蹲踞石獅子	単所型	H54・ L80・W34
三二	1	豊見城市	高安	シーサーヌメー (獅子の前)の シーサーシーウカミ	北	南南東	焼物シーサー	単所型	H50・ L34・W22
三三	1	豊見城市	渡嘉敷		西	南	根差部・渡嘉敷型 蹲踞石獅子	単所型	H76・ L64・W31
三四	1	豊見城市	高嶺		北	南南西	立石獅子	単所型	H63・ L72・W52
三五	1	豊見城市	保栄茂		西	南西	蹲踞石獅子	単所型	H50・ L36・W44
三六	1	豊見城市	平良		北西	北北西	自然石型 (加工)石獅子	単所型	H43・ L120・W23
三七	1	豊見城市	翁長		南	南	蹲踞石獅子	単所型	H48・ L38・W21
三八	1	与那原町	与那原 中島	北東の石獅子	北東	北北東	与那原現代向 天眼型蹲踞石獅子	多所型 (中島・ 新高合計 過去 一時期 5箇所)	H86・ L50・W50
三八	2	与那原町	与那原 中島	北西の石獅子	北西	北東 (過去 北北東)	与那原現代向 天眼型蹲踞石獅子	多所型 (中島・ 新高合計 過去 一時期 5箇所)	H93・ L50・W55

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位はcm)
三九	1	与那原町	与那原新島	南の石獅子	南西	南南西	与那原現代向 天眼型蹲踞石獅子	多所型 (中島・ 新島合計 過去 一時期 5箇所)	H:108・ L:50・W:50
三九	2	与那原町	与那原新島	北の石獅子	北東	北北東	与那原現代向 天眼型蹲踞石獅子	多所型 (中島・ 新島合計 過去 一時期 5箇所)	H:73・ L:55・W:58
四〇	1	与那原町	上与那原	火の獅子	西	南南西	古堅・上与那原型 蹲踞石獅子	単所型	H:92・ L:73・W:38
四一	1	与那原町	与那原大見武		南	南南東	与那原古典型 蹲踞石獅子	単所型	H:72・ L:108・W:33
四二	2	与那原町	板良敷	北のシーサー (イシフトキ=石仏とも)	北	南西 (戦前は 北西)	与那原古典型 蹲踞石獅子	過去 双所型 (2方向)	H:60・ L:83・W:40
四三	1	南風原町	兼城	東の石獅子	北	南南東	立石獅子	双所型 (2方向)	H:56・ L:107・W:46
四三	2	南風原町	兼城	西の石獅子	西北	北北西	横臥石獅子	双所型 (2方向)	H:41・ L:94・W:28
四四	1	南風原町	本部		北東	南南西	蹲踞石獅子	過去 双所型 (単方向)	H:73・ L:39・W:40
四五	1	南風原町	照屋	デー森の石獅子	西	北	照屋型立石獅子	双所型 (単方向)	H:64・ L:90・W:34
四五	2	南風原町	照屋	北の石獅子	北	北北東	照屋型立石獅子	双所型 (単方向)	H:77・ L:103・W:33
四六	1	南城市	大里仲間仲程	東の石獅子	東	北東	大里仲程型 蹲踞石獅子	多所型 (3箇所)	H:42・ L:60・W:45
四六	2	南城市	大里仲間仲程	南の石獅子	南	南西	大里仲程型 蹲踞石獅子	多所型 (3箇所)	H:86・ L:71・W:43
四六	3	南城市	大里仲間仲程	北の石獅子	北	北北東	大里仲程型 蹲踞石獅子	多所型 (3箇所)	H:100・ L:34・W:67
四七	1	南城市	大里平良		南	南	大里仲程型 蹲踞石獅子	単所型	H:45・ L:25・W:25
四八	1	南城市	大里大里南風原	石彫魔除獅子	西	西	蹲踞石獅子	単所型	H:90・ L:50・W:40
四九	1	南城市	大里古堅		北東	北	古堅・上与那原型 蹲踞石獅子	単所型	H:100・ L:34・W:22
五〇	1	南城市	大里古堅島袋		北	北	古堅・上与那原型 蹲踞石獅子	単所型	H:80・ L:90・W:50
五一	1	南城市	大里大城		東	東	セメントシーサー	双所型 (2方向)	H:119・ L:113・W:60
五一	2	南城市	大里大城		北	北	セメントシーサー	双所型 (2方向)	H:118・ L:112・W:62
五二	1	南城市	佐敷屋比久	後東門小後方の 石獅子	東	東	セメントシーサー	過去 多所型 (3箇所)	H:99・ L:83・W:62
五二	2	南城市	佐敷屋比久	ガンジャラ山の 角の石獅子	西	西北西	セメントシーサー	過去 多所型 (3箇所)	H:99・ L:83・W:62
五三	1	南城市	佐敷屋比久外間		南東	南南東	蹲踞石獅子	過去 多所型 (3箇所)	H:54・ L:57・W:30
五四	1	南城市	佐敷富祖崎		南	南南西	蹲踞石獅子	単所型	H:75・ L:105・W:52

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位12cm)
五五	1	南城市	知念海野	海野のシーサー グラー(獅子小)	中	南南東	焼物シーサー	単所型	
五六	1	南城市	知念 入手堅		中	西	蹲踞石獅子	過去 多所型 (3箇所)	H67・ L44・W32
五七	1	南城市	知念知念		北	北北東	知念型蹲踞石獅子	双所型 (2方向)	H70・ L50・W38
五八	1	南城市	知念 具志堅		北	北北西	知念型蹲踞石獅子	双所型 (2方向)	H82・ L75・W38
五九	1	南城市	玉城糸数	アカグムヤー 出口のシーサー	東	東北東	玉城屋嘉部型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H52・ L73・W30
五九	2	南城市	玉城糸数	サーターヤー 出口のシーサー	東	南東	玉城屋嘉部型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H48・ L72・W38
五九	3	南城市	玉城糸数	カンザーヤ 出口のシーサー	南	南南東	玉城屋嘉部型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H54・ L85・W43
五九	4	南城市	玉城糸数	マージ 出口のシーサー	北	東南東	玉城屋嘉部型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H64・ L77・W43
六〇	1	南城市	玉城當山	東の石獅子	東	南東	玉城當山型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H54・ L82・W56
六〇	2	南城市	玉城當山	西の石獅子	西	南西 (過去 西南西)	玉城當山型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H69・ L100・W61
六〇	3	南城市	玉城當山	南の石獅子	南	南	玉城當山型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H69・ L93・W56
六〇	4	南城市	玉城當山	北の石獅子	北	南西	玉城當山型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H62・ L81・W65
六一	1	南城市	玉城 屋嘉部	東の石獅子	東	南東	玉城屋嘉部型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H65・ L77・W35
六一	2	南城市	玉城 屋嘉部	西の石獅子	西	北西	玉城屋嘉部型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H53・ L77・W31
六一	3	南城市	玉城 屋嘉部	南の石獅子	南	南西	玉城屋嘉部型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H60・ L87・W37
六一	4	南城市	玉城 屋嘉部	北の石獅子	北	北	玉城屋嘉部型 立石獅子	多所型 (4箇所)	H58・ L83・W30
六二	1	南城市	玉城中山	中央の石獅子	中 (中央 東)	南	玉城當山型 立石獅子	多所型 (5箇所)	H53・ L80・W39
六二	2	南城市	玉城中山	東の石獅子	東	東	玉城當山型 立石獅子	多所型 (5箇所)	H41・ L85・W43
六二	3	南城市	玉城中山	西の石獅子	中 (中央 西)	南西	玉城當山型 立石獅子	多所型 (5箇所)	H41・ L81・W31
六二	4	南城市	玉城中山	南の石獅子	南	南	玉城當山型 立石獅子	多所型 (5箇所)	H36・ L81・W44
六二	5	南城市	玉城中山	北の石獅子	北	北	玉城當山型 立石獅子	多所型 (5箇所)	H36・ L81・W44
六三	1	南城市	玉城百名	東の石獅子	中	東南東	玉城當山型 立石獅子	多所型 (過去 5箇所)	H55・ L68・W52
六三	2	南城市	玉城百名	西の石獅子	西	北	玉城當山型 立石獅子	多所型 (過去 5箇所)	H53・ L73・W54
六三	3	南城市	玉城百名	南の石獅子	南	南	玉城當山型 立石獅子	多所型 (過去 5箇所)	H42・ L57・W32
六四	1	南城市	玉城前川	東の石獅子	東	南西	蹲踞石獅子	多所型 (3箇所 単方向)	H62・ L85・W28

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位はcm)
六四	2	南城市	玉城前川	西の石獅子	西	南南西	玉城前川型立石獅子	多所型(3箇所単方向)	H:65・L:93・W:35
六四	3	南城市	玉城前川	南の石獅子	南	南南西	玉城前川型立石獅子	多所型(3箇所単方向)	H:66・L:88・W:35
六五	1	八重瀬町	富盛	石彫大獅子	南	南西	八重瀬・糸満古典型蹲踞石獅子	単所型	H:142・L:140・W:60
六六	1	八重瀬町	東風平	卯ヌ方のシーサー	東	東	東風平型蹲踞石獅子	多所型(4箇所)	H:77・L:85・W:31
六六	2	八重瀬町	東風平	酉ヌ方のシーサー	西	南南西	東風平型蹲踞石獅子	多所型(4箇所)	H:97・L:103・W:97
六六	3	八重瀬町	東風平	午ヌ方のシーサー	南	南	セメントシーサー	多所型(4箇所)	H:44・L:54・W:37
六六	4	八重瀬町	東風平	子ヌ方のシーサー	北	南南東	東風平型蹲踞石獅子	多所型(4箇所)	H:70・L:95・W:28
六七	1	八重瀬町	宜次	卯ヌ方のシーサー	東	北東	横臥型石獅子	多所型(4箇所)	H:45・L:70・W:35
六七	2	八重瀬町	宜次	酉ヌ方のシーサー	西	北	焼物シーサー	多所型(4箇所)	H:40・L:40・W:17
六七	3	八重瀬町	宜次	午ヌ方のシーサー	南	東	焼物シーサー	多所型(4箇所)	H:27・L:23・W:13
六七	4	八重瀬町	宜次	子ヌ方のシーサー	北	北	蹲踞石獅子	多所型(4箇所)	H:47・L:70・W:30
六八	1	八重瀬町	小城	ニーセ石	東	南南西	蹲踞石獅子	単所型	H:150・L:65・W:48
六九	1	八重瀬町	伊覇		南	東南東	立石獅子	単所型	H:68・L:96・W:32
七〇	1	八重瀬町	志多伯	卯ヌ端のシーサー(夫婦シーサー)	東	東南東	蹲踞石獅子	多所型(5箇所)	H:39・L:82・W:34
七〇	2	八重瀬町	志多伯	卯ヌ端のシーサー(夫婦シーサー)	東	南西	蹲踞石獅子	多所型(5箇所)	H:36・L:74・W:32
七〇	3	八重瀬町	志多伯	酉ヌ端のシーサー	西	北西	立石獅子	多所型(5箇所)	H:40・L:63・W:26
七〇	4	八重瀬町	志多伯	午ヌ端のシーサー	南	南南東	蹲踞石獅子	多所型(5箇所)	H:77・L:95・W:44
七〇	5	八重瀬町	志多伯	子ヌ端のシーサー	北西	西	自然石型石獅子	多所型(5箇所)	H:52・L:78・W:32
七一	1	八重瀬町	具志頭		北郊外	北	大岩加工型石獅子	単所型	H:150・L:163・W:195
七二	1	八重瀬町	新城	東の石獅子	東	東北	新城型立石獅子	過去多所型(4箇所)	H:48・L:75・W:30
七二	2	八重瀬町	新城	西の石獅子	南	南西	新城型立石獅子	過去多所型(4箇所)	H:52・L:94・W:35
七三	1	八重瀬町	安里		西	西	自然石型石獅子	過去双所型	H:90・L:125・W:60
七四	1	糸満市	照屋		東	東	八重瀬・糸満古典型蹲踞石獅子	単所型	H:100・L:60・W:40
七五	1	糸満市	座波		南	南東	自然石型石獅子	単所型	H:73・L:172・W:45
七六	1	糸満市	与座		北	北西	糸満型蹲踞石獅子	単所型	H:62・L:103・W:38
七七	1	糸満市	国吉		東郊外	東南	現代型立石獅子	双所型	H:71・L:105・W:46

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位はcm)
七七	2	糸満市	国吉		東南	南南西	国吉型横臥石獅子	双所型	H32・ L62・W26
七八	1	糸満市	大里		北	南東	糸満型蹲踞石獅子	単所型	H68・ L108・W39
七九	1	糸満市	名城		南	南南西	糸満型蹲踞石獅子	単所型	H70・ L64・W33
八〇	1	座間味村	阿真		北	北北東	セメントシーサー (現代蹲踞型)	単所型	H58・ L47・W33
八一	1	座間味村	阿嘉	シムンダカリ 獅子山のシーサー	北	北東	焼物シーサー	双所型 (2方向)	H66・ L52・W31
八一	2	座間味村	阿嘉	マタキ獅子山の シーサー	北	西	焼物シーサー	双所型 (2方向)	H67・ L48・W34
八二	1	石垣市	伊原間	アカフチ(赤口)	北	西南西	焼物シーサー	単所型	計測不能
八三	1	竹富町	波照間 名石 (北郊)	ムラボーギイシ (['村の守り石])	北郊外	北北西	波照間自然石型 石獅子	多所型 (富嘉と 合わせ 過去4 箇所2 方向) (島単位)	H160・ L297・W139
八四	1	竹富町	波照間 富嘉 (北郊)	ムラボーギイシ (['村の守り石])	北郊外	北北西	波照間自然石型 石獅子	多所型 (名石と 合わせ 過去4 箇所2 方向) (島単位)	H99・ L160・W113
【保存村落守護シーサー】									
六三	4	うるま市	勝連比嘉	百名のシーサー (遺失した4つ目、 番号六三4) (推測)	北西	北東	玉城富山型 蹲踞石獅子	多所型 (5箇所)	H53・ L72・W53
無番	1	那覇市	おもろ まち	シーシ (沖縄県立博物館)		南南東	蹲踞石獅子		H63・ L83・W35
二二	2	那覇市	若狭	火の神	西	西	焼物シーサー	単所型	H51・ L49・W30
八一	3	座間味村	阿嘉 マタキ	マタキ獅子山の シーサー(先代)	北		焼物シーサー	双所型 (2方向)	H67・ L33・W32
【遺失村落守護シーサー】									
一	4	伊平屋村	田名	イリジョー(東門) のシーサー(先代)	西	西南西			
二	3	東村	慶佐志	北のシーシ	北	北	蹲踞石獅子	双所型	
四	2	宜野座村	松田	石敢當	西		宜野座石敢當型 石獅子	過去 多所型 (4箇所)	
四	3	宜野座村	松田	石敢當	南		宜野座石敢當型 石獅子	過去 多所型 (4箇所)	
四	4	宜野座村	松田	石敢當	北		宜野座石敢當型 石獅子	過去 多所型 (4箇所)	
遺失 一	1	宜野座村	宜野座	石敢當	南		宜野座石敢當型 石獅子	単所型	

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位はcm)
遺失二	1	うるま市	与那城						
八	3	うるま市	勝連津堅	西の石獅子	西			過去多所型 (3箇所)	
九	3	うるま市	勝連南風原	東の石獅子	東			過去多所型 (5箇所)	
九	4	うるま市	勝連南風原	東北の石獅子	東北			過去多所型 (5箇所)	
九	5	うるま市	勝連南風原	南の石獅子	南東			過去多所型 (5箇所)	
一三	3	沖縄市	古謝	イヌシーサー	西	南西		過去多所型 (3箇所)	
遺失三	1	嘉手納町	野里		西			単所型	
遺失四	1	北中城村	熱田					単所型	
遺失五	1	中城村	津覇					単所型	
一五	2	宜野湾市	我如古					過去多所型 (4箇所)	
一五	3	宜野湾市	我如古					過去多所型 (4箇所)	
一五	4	宜野湾市	我如古					過去多所型 (4箇所)	
一六	3	宜野湾市	嘉数		南	南西		単所型	
遺失六	1	宜野湾市	普天間						
遺失七	1	宜野湾市	伊佐		西北	西		多所型 (4箇所 単方向)	
遺失七	2	宜野湾市	伊佐		西	西		多所型 (4箇所 単方向)	
遺失七	3	宜野湾市	伊佐		西	西		多所型 (4箇所 単方向)	
遺失七	4	宜野湾市	伊佐		西南	西		多所型 (4箇所 単方向)	
一七	9	宜野湾市	喜友名					多所型 (過去 合計10体)	
一七	10	宜野湾市	喜友名					多所型 (過去 合計10体)	
遺失八	1	那覇市	首里山川	ヒーゲシ		南東		単所型	H54・ L:47・W:42
遺失九	1	那覇市	鏡水	東のシーサー	東	南西		多所型 (3箇所)	

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位はcm)
遺失九	2	那覇市	鏡水	西のシーサー		西		多所型 (3箇所)	
遺失九	3	那覇市	鏡水	北のシーサー		北	西	多所型 (3箇所)	
遺失一〇	1	那覇市	垣花	ウマイーのシーサー			南	単所型	
二六	4	那覇市	上間	スムンターパンタのシーサー		東	南	過去 多所型 (4箇所)	
二六	5	那覇市	上間			東		過去 多所型 (4箇所)	
二八	3	豊見城市	饒波			南	南	単所型 (双体型)	
三八	3	与那原町	与那原中島	南の石獅子 (初代)		南	南	石獅子	多所型 (中島・新島 合計過去 5箇所)
三八	4	与那原町	与那原中島	南のシーサー (2代目・撤去)		南	南	セメントシーサー	多所型 (中島・新島 合計過去 5箇所)
三八	5	与那原町	与那原中島	南のシーサー (3代目・撤去)		南	南		多所型 (中島・新島 合計過去 5箇所)
三八	6	与那原町	与那原中島	北東の石獅子 (先代)		北東	北北東	石獅子	多所型 (中島・新島 合計過去 5箇所)
三八	7	与那原町	与那原中島	北西の石獅子 (先代)		北西	北北東	石獅子	多所型 (中島・新島 合計過去 5箇所)
三九	3	与那原町	与那原新島	南の石獅子 (先代)		南西	南南西	石獅子	多所型 (中島・新島 合計過去 5箇所)
三九	4	与那原町	与那原新島	北の石獅子 (先代)		北東	北北東	石獅子	多所型 (中島・新島 合計過去 一時期 5箇所)
四二	2	与那原町	板良敷	南のシーシ (イシブキ=石仏) (初代)		南			過去 双所型 (2方向)
四二	3	与那原町	板良敷	南のシーシ (イシブキ=石仏) (2代目)		南			過去 双所型 (2方向)
四二	4	与那原町	板良敷	北のシーシ (イシブキ=石仏) (2代目)		北	北西		過去 双所型 (2方向)
四三	3	南風原町	兼城	東の石獅子 (先々代)		東	東	石獅子	双所型 (2方向)
四三	4	南風原町	兼城	東のシーサー (先代)		東	東	焼物シーサー (石獅子の代用)	双所型 (2方向)
四四	2	南風原町	本部			北西	南		過去 双所型 (単方向)
四九	2	南城市	大里古堅	(初代)		北東	北	石獅子	単所型

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位はcm)
四九	3	南城市	大里古堅	(2代目)	北東	北	石獅子	単所型	
遺失一	1	南城市	佐敷津波古	アラシナーバルのシーサー	北東	南東	石獅子	多所型 (3箇所)	
遺失一	2	南城市	佐敷津波古	西の火返し獅子	西	南西	石獅子	多所型 (3箇所)	
遺失一	3	南城市	佐敷津波古	アガリジョーグワ一のシーサー	北		石獅子	多所型 (3箇所)	
遺失二	1	南城市	佐敷新里	ノロ殿内のシーサー	ノロ殿内	南東		単所型 (2方向)	
遺失二	2	南城市	佐敷新里	ノロ殿内のシーサー	ノロ殿内	南西		単所型 (2方向)	
五二	3	南城市	佐敷屋比久	後東門小後方の石獅子(先代)	東	東	石獅子	過去多所型 (3方向)	
五二	4	南城市	佐敷屋比久	ガンジャラ山の角の石獅子(先代)	西	西北西	石獅子	過去多所型 (3方向)	
五二	5	南城市	佐敷屋比久	宮城梅造宅の角の石獅子	宮城梅造宅の角		石獅子	過去多所型 (3方向)	
五三	2	南城市 佐敷外間	佐敷外間		志茂(屋号)の南西の角	西	石獅子	過去多所型 (3箇所)	
五三	3	南城市 佐敷外間	佐敷外間		前ノ志茂(屋号)の南西の角	西	石獅子	過去多所型 (3箇所)	
五五	2	南城市	知念海野	海野のシーサーグッア(獅子小)(先代)	中	北	焼物シーサー	単所型	
五六	2	南城市	知念久手堅		東		石獅子	過去多所型 (3箇所)	
五六	3	南城市	知念久手堅		北		石獅子	過去多所型 (3箇所)	
遺失一三	1	南城市	玉城仲村渠		公民館附近	北	石獅子	単所型	
六三	5	南城市	玉城百名				玉城富山型立石獅子	多所型 (過去5箇所)	
遺失一四	1	南城市	玉城富里					単所型	
六六	5	八重瀬町	東風平	午ヌ方のシーサー(先代)	南	南	東風平型跨踞石獅子	多所型 (4箇所)	
六七	5	八重瀬町	宜次	西ヌ方のシーサー(先代)	西	北		多所型 (4箇所)	
六七	6	八重瀬町	宜次	午ヌ方のシーサー(先代)	南	東		多所型 (4箇所)	

集落番号	設置番号	行政単位	集落名	呼称	集落上の位置	方位	類型	設置様態	法量 (単位はcm)
六八	2	八重瀬町	小城	二一七石(先代)				単所型	
七二	3	八重瀬町	新城	南の石獅子	南		新城型立石獅子	過去多所型(4箇所)	
七二	4	八重瀬町	新城	北の石獅子	北	東	新城型立石獅子	過去多所型(4箇所)	
七三	2	八重瀬町	安里				自然石型石獅子	過去双所型	
遺失一五	1	糸満市	真栄平						
七七	3	糸満市	国吉	(先代)	東	東	国吉型横臥石獅子	双所型	
八二	2	石垣市	伊原間	(先代)					
遺失一六	1	石垣市	大浜					単所型	
八三	2	竹富町	波照間名石			北北西	波照間自然石型石獅子	過去多所型(富嘉と合わせ過去4箇所2方向)(鳥単位)	
八四	2	竹富町	波照間富嘉			北西	波照間自然石型石獅子	過去多所型名石と合わせ過去4箇所2方向)(鳥単位)	

